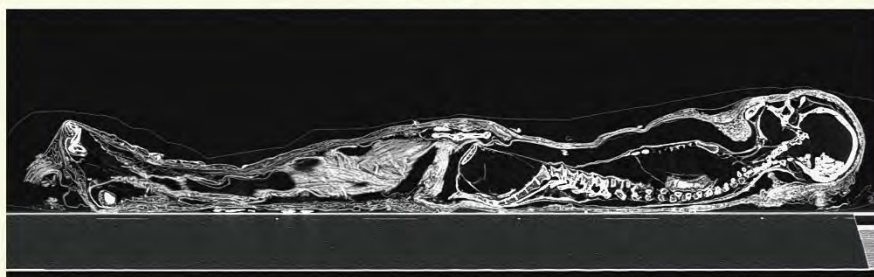
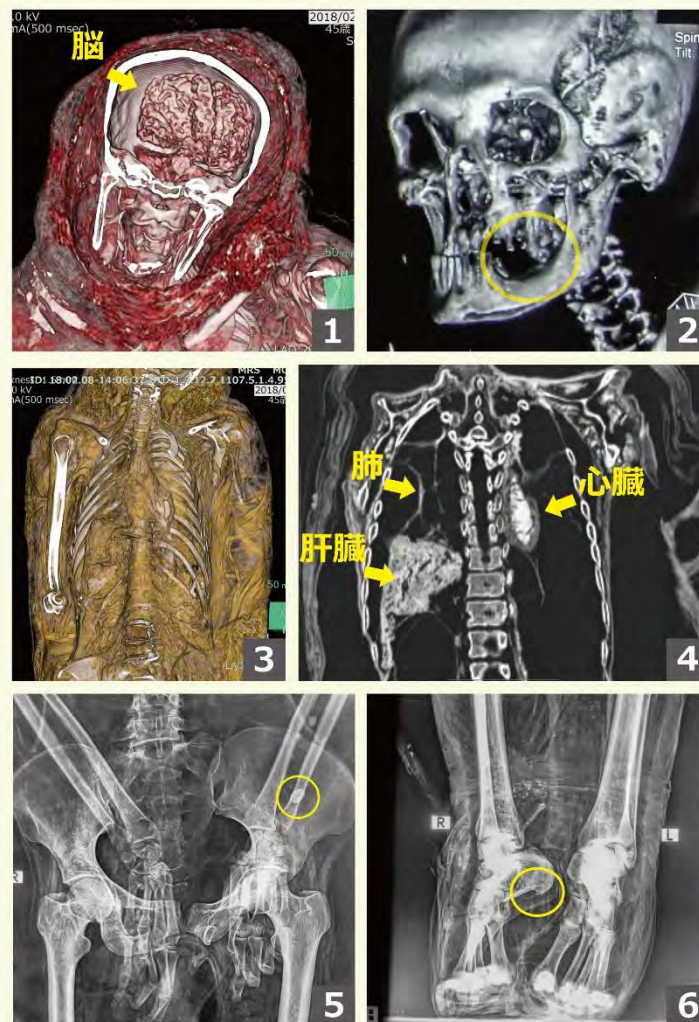


ミイラの X 線撮影・CT スキャンニング



16-G4 号墓 (2016 シーズン)

亜麻布に包まれたミイラが人形木棺に収められていた。棺の下から皮革製の靴と植物製のクツが出土している。



X 撮影と CT スキャンニングによって、亜麻布を解かなくてもミイラの状態を知ることができ、性別や病歴などの情報が得られる。

このミイラは壮年から熟年にかけての、身長 145cm ほどの小柄な成人女性であった。脳、心臓、肺、肝臓が取り除かれずに原位置で残っている (1・3・4)。

年齢に比して口内環境は劣悪であり、下顎左右の奥歯がほとんど失われている (2)。歯周病が原因と思われ、死の遠因となった可能性もある。また、踵の骨の状態から、日常的に重いものを運んでいたことが窺われる (6)。

副葬品は左手首にスカラベと思われる護符が見えている (5)。

16-G4 号墓出土
(左) 赤色皮革製ブーツ (靴)
(右) 植物製クツ (Opne shoes)



